



12/14
成田⇒フンペン

バイクやトゥクトゥクで混み合う街中。首都は発展し賑やかでした。



12/15
フンペン市内



この都市で、タナオでとれた赤米がこんな風に提供されています。お肉に隠れてるけど。

シーライツ事業

12/16
タナオへ



学校の先生方とのミーティング。

退学する子どもは減ってきているとのこと！



村の有力者の方々と会合。



子どもの権利について啓蒙活動を担う新リーダーたち。

1日のうちで、勉強をする時が一番楽しい！というタナオの子どもたち。経済的理由で学校に行けなくなる子が多かったけれど、以前より生活が改善し、勉強の大切さについて親の理解が深まったこともあり、リタイアする生徒数がぐっと減ったそうです。農協が設立されたこと、道路の整備や経済特区の開発により、家族がタナオを離れずに仕事ができるようになったのも大きな要因と考えられます。



図書スペース。本が大好きですって。



いったん学業を諦めたけど、また復帰した生徒宅訪問。

CAE事業

12/17
州農業局へ

タナオ農協は、報告書も会計も正しく提出されていて立派、組合員も多いし、きちんと運営されている。州農業局に褒められて、なぜか我々も鼻高々。CAEさんのサポートも高く評価されました。▶



州農業局の前で。

14の瞳で見えてきました！

2017.12.14~17

農家訪問

野菜づくり・堆肥づくりを実施中のホアさんの家。新芽を守るためのネット、きれいに整えられた畝に支柱。ご自慢の畑なのだと思う。帰り際は満面の笑みで手を振って見送ってくださいました。▶



農業センター訪問



天井の高い建屋の奥に、精米機が据え付けられ、広く開いたスペースには子どもたちが集っていました。年長者の話しにじっと聞き入っています。少し時間をもらってお手玉披露&教授をしてきました。体幹がしっかりしているからかしら、子どもたちはすぐできるようになりました。▶



建屋に隣接するCAE事務所(の台所)。



建屋の前には、試験栽培中の野菜がきれいに並んでいます。

ベッドもないタイル張りの部屋で、CAEスタッフのソピアさんは、家族と遠く離れて暮らし、タナオの人々に農業指導をし、業務時間外は子どもたちに英語や算数を教えています。▶

こちらは、カンさんの家。▶

子どもと犬とニワトリが駆け回り渾然一体となっている中、モミの袋詰めを高光さんが手伝っても違和感ありません。「平均的な貧しい農家」であるカンさんの生活が改善すれば、それは他の農家の生活改善のヒントになる、と上田さん。

タナオ農協、CAE、スバイリエン州農業局が連携しながら、農家の生計向上計画を着実に進めていることが分かりました。農業局は地域の農協を「親の気持ちで」支えているのだそうです。CAEが最貧地域のタナオを選んで支援したことも評価していました。タナオ農協とCAEは、組合員への農業指導だけでなく、子どもたちの将来のことも考えています。我々の訪問はカンさんの笑顔で締めくくられました。爽やかな気分でした。

